

「全鍍連」 2018年 10月号 巻頭言

全鍍連 経営委員長 黒澤 久（スリーケ㈱ 代表取締役会長）

「それいけ働き方改革？」



全鍍連の経営委員会委員長の黒澤です。「先輩経営者との意見交換会」「女性経営者部会」を担当させて頂いております。全鍍連皆様にはこれらの活動にご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

大手企業の三月決算で過去最高の利益を上げているとの報道が目につきましたが、景気のほうはどうなっていくのでしょうか。これから先も、中小企業にとって更に厳しい経済環境になって行く事が想像できます。そんな中、改めて事業内容の再検討をして行く必要があると思います。脈々と受け継がれてきて捨ててはいけないものと、時代に合わせて切り捨てた方が良いもの、選択と集中を進めて行かなければならない時期と考えます。

さて今、国の方では働き方改革を推し進めています。昭和の時代「二四時間働けますか？」と言うスタミナドリンクのコマーシャルを思い出されます。

当時は人の2倍働いて2倍の収入を得れば家族も自分も幸せになれる風潮がありました。現在は、過剰に働くのは罪と言われているようです。ブラック企業は論外ですが、企業も本人も合意の上で一生懸命働いて、本人の収入を増やすことの大切さは忘れてはならないと思います。

最近聞いたタクシー運転手の話があります。昔は長距離のお客が居れば帰社時間が伸びても売上優先でしたが、今は帰社時間に遅れると減俸になるらしいです。だから帰社時間が近づくと「回送」の札を出して一目差に帰るそうです。そして退社後にアルバイトをしている。今ではお客様第一主義の考え方が無くなって来ているとの事。

我々中小企業も本人が残業したくないと言えば目を瞑るしかないのでしょうか。退社後に他でアルバイトをしているも……。

「働き方改革」って「働かない改革？」「働くな改革？」「副業奨励改革？」ですか？ 昔は、会社が正当な報酬を出すから会社以外の仕事と報酬は禁止と言うのが当たり前であったと思う。それが副業解禁となれば「早く帰って別の仕事をして良いよ」になってしまう。翌日にバイトの疲れが残って出勤してしまってもいいのですか？これでは、会社への帰属意識、忠誠心はどんどん失われていってしまいます。昔の「日本的経営」は罪であると言う事なのだろうか。

日本本来の思想に基づく「日本的経営」を軽視して見捨てなさいとの指導ですか？

日本の経済を支えているのは多くの中小企業です。多様な働きを実現するというのが今回の働き方改革のひとつの目

標にあると思いますが、この働き方を推進すれば会社の活力が削がれると思う。この働き方改革を始めとして、むやみに祭日を増やしたり、いろいろなハラスメント禁止法が立法化して来ている。確かに目に余る極く少ない事例はあるが、すべてに網を掛けてしまうと言うのは、日本の国を滅ぼす危険をはらんではいないだろうか。

しかしながら、避けては通れないことも事実であり我々としても労働環境の見直しによる、更なる生産性の向上を図っていくと共に労働時間の規制の今後の方向に注意を払っていく必要があると思います。

いささか飛躍した内容になってしまいましたが、経営者も従業員も安心・安定して働け、豊かな社会が実現できるような改革をしてほしいと思います。

いずれにしても、これらの課題に危機意識をもって経営して行く事が大事ではないかと考えます。